2018年6月　1日　　No.130　　発行責任者　田中　孝史

第１３０号

郵政産業ユニオン PIWU TOKYO
郵政産業労働者ユニオン東京地方本部
104-0031　東京都中央区京橋3－6－3
京橋通郵便局5F
TEL・FAX 03-3535-5447
piwutokyo@yahoo.co.jp

# 直ちに欠員を補充せよ

## 交渉で職場の実態と切実な要求を反映させる

5月16日、東京地本は職場で出されている切実な要求を解決させていくために東京支社と交渉を行いました。

### 項目を絞って追及

今回の交渉は労使関係、要員不足、勤務時間、営業、期間雇用社員に関する問題に絞って行いました。要員不足は都内どこでも深刻で郵便内務、外務でただ働きが行われている実態、休息・休憩時間がとれてない実態等をあげて追及しました。

支社は「勤務時間管理に関しては適正に対処するよう指導している」と、従来と変わらない回答でした。そして、現在1、000人(内務450人、外務550人)不足している、これは数年変わらないとしています。

地本はこの数が変わらないのは働きやすい職場になっていないからであり、それを解決させることが急務だと改善を強く求めました。

また、6月末に法人向け郵便集荷を廃止するとしていることから郵便内務はどこでも今以上に加重労働になります。地本は必要な人員を配置して対応するよう求めましたが、支社は「困難がないようにします」と事務的に答えるのみでした。

### 非正規社員の要求

期間雇用社員に関してはスキル評価の運用が適正にされていないことや祝日に非番日が指定されていることから週によっては休暇なしで連続出勤している問題等も追及し、期間雇用社員が働き続けられるようにしていくためにも改善を求めました。

東京地本は交渉でも現場の実態を反映し解決させていくと共に、誰もが安心して働き続けられる職場にしていくために奮闘していきます。

# 連日の国会前行動

5月25日、政府の「働き方改革」をストップさせる国会前行動で、過労死したNHK記者佐戸未和さんのお母さんは「いてもたってもおられなくなってここにきました。これは通してはダメ」という訴えに全員が怒りを共有しました。私たちは過労死を増大させないためにも廃案をかちとろう。